

巻頭言

「ことばの力」を育てる



広島大学大学院教育学研究科 教授 吉田 裕久

今、多くの場で「ことばの力」を高めることが強調されている。それは「ことばの力」の大切さが再認識される一方で、「ことばの力」の不足が指摘されているからである。それは、次のような答申や調査結果などに表れている。

- 文化審議会国語分科会(2004.2.3)「これからの時代に求められる国語力について」(考える力・感じる力・想像する力・表す力)
- 広島県教育委員会(2004.4)「子どもたちに『ことばの力』をはぐくむために」(聞く・読む・話す・書く技能, 考える・感じる・表す能力)
- PISA調査(読解力)(Reading Literacy)の結果(2004.12)(理解し, 利用し, 熟考する能力)

これらの答申や調査結果などから、「ことばの力」として要請されている力が、「話す・聞く・書く・読む」能力のみならず、「考える, 感じる, 想像する」能力など, ことばを通して発展的に獲得する力にまで及んでいることがわかる。

広島県は、「ことばの力」を学習や生活の基盤となる重要な「力」として, 全教科・活動を通じて育成する「ことばの教育県」づくり事業を推進している。各パイロット校においては, 子どもたちの論理的思考力及びコミュニケーション能力等を育成するための実践

的な研究が行われているところである。

国語科は, 目的的・計画的・体系的に「ことばの力」を育てる教科である。言語知識(音声・音韻, 文字, 語句・語彙, 文法など)と言語活動力(話す・聞く・書く・読む能力)とを「ことばの力」の基礎・基本として育ててきた。ただ, 今日,

読む=読解+読書
書く=生活文・感想文+意見文

話す・聞く=独話(スピーチ・発表)+対話・会話などと, これまで育ててきた「ことばの力」に加えて, 広義の「ことばの力」を育て, 伸ばすことが求められている。

全教科・活動を通じて, ことばは必要不可欠なものである。ことばを用いたこれらの学習の場は, 「ことばの力」を育てる「実の場」となる。例えば, 社会科の発表の場や総合的な学習の時間の話し合いの場で, 必然性を伴って「ことばの活動」が行われる。とはいえ, これらの活動は, 「ことばの力」を育てること」が「目的」ではない。あくまで, その「教科・活動のねらいを達成すること」が「目的」である。国語科で培った「ことばの力」を「手段」として効果的に用いて, それらの教科・活動のねらいを達成するような学習内容や取組を創り出すことが求められている。

| | | | | |
|----|-----------|-------------|------------|-----------|
| 目次 | ○巻頭言 | P.1 | ○教育関係資料の紹介 | P.5 |
| | ○教育研究の紹介 | P.2・3 | ○教育センターひろば | P.6 |
| | ○研修講座だより② | P.4 | | |

教育研究の紹介

教育用コンテンツの開発・作成に係る実践研究

教育センター主任指導主事 住吉 磨
教育センター指導主事 山領 勲

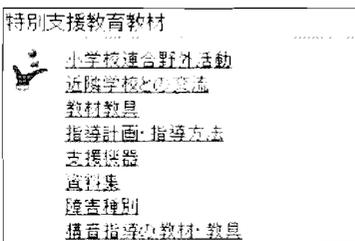
教育センターでは、昨年度、市立学校の先生方の協力を得て、内部Webページで教育情報を提供するシステムを構築しました。今年度も教育情報のより一層の充実を目指しています。これらの教育情報をご活用いただくために、『教育センター内部Webページ活用ハンドブック』を各学校にお配りしましたが、その概要についてお知らせいたします。

教育用コンテンツ開発・作成の視点

教育情報の開発・作成の視点を次のように定め、1～5の五つの分野別に開発・作成を行いました。

- 広島ならではの教育情報を優先して収集する。
- 緊要な教育課題の解決につながる教育情報を収集する。
- 授業のヒントが得られるような情報を添付して教育情報の提供を行う。
- 目的の情報に容易にアクセスできるように工夫する。

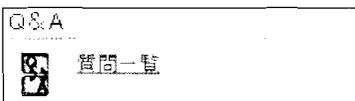
1 特別支援教育に係る教育情報



広島市内の先生方が作成された連合野外活動や個別の指導計画、構音障害のある子どもの指導、自作による支援機器等、多岐に渡る教育情報を集めて、左のようなカテゴリーに分けて紹介し、今後の指導資料等を作成する際に活用できる形式で提供しています。

提供する教育情報は、「事務文書」と「教材・教材作成用データ」に分けて整理しています。個別の指導計画等の様式や「記述例を記したサンプル」は、閲覧するだけでなく、ダウンロードして利用することも可能です。

2 コンピュータやネットワーク活用時のトラブル解決に係る教育情報

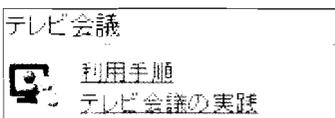


Click

次の五つの内容について、市立学校の先生方が、実際の実践の中から体得したトラブル解決法をQ&A形式でまとめました。

- ・ファイル管理について
- ・著作権について
- ・ホームページについて
- ・ネットワークの活用について
- ・コンピュータ使用中のトラブルについて

3 テレビ会議システムの活用に係る教育情報

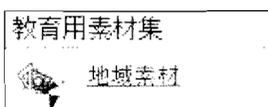


Click

市立学校4校で、2種類のテレビ会議を用いた実践を行いました。そこから見いだされたノウハウなどを、次の6点にまとめています。

- ・テレビ会議って、どんなもの？
- ・テレビ会議に期待できる効果
- ・準備物
- ・当日までの取り組み
- ・実践事例
- ・よくある疑問 (FAQ)

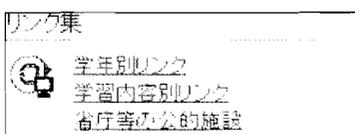
4 地域素材に係る教育情報



社会科や総合的な学習の時間で利用できる広島市の産業や昔の道具などの地域素材を収集し、内容別または地域別に整理をしました。この教育情報を活用して、次のような活動が考えられます。

- ・児童がWebページを閲覧し、学習プリントに記述しながら、調べ学習を行う。
- ・教師が写真等をプロジェクターで投影したり、印刷したりして提示用資料とする。

5 インターネット上の教育情報(リンク集)



昨年度は、小学校に焦点化して、学年別・教科別にリンク情報を分類・整理し、リンク情報を教材名に対応させて活用できるようにしました。インターネット上には有益な教育情報がたくさんあります。校内LANを用いて、子どもたちの関心・意欲を高めたり、知識の補完に活用したり、学びの補完に活用したり、思考を深めたり広げたりすることに活用してみましょう。

今年度も、教育センター内部Webページの一層の充実を図るべく、研究協力員の先生方にご協力をいただいています。このページが市立学校の大きな財産となるように、より多くの先生方に、このページをご活用

いただき、改善の視点や地域素材等の提供についてご協力いただけることを願っています。

教育センター内部Webページアドレス

<http://192.168.6.10/>

教育研究の紹介

少人数指導の充実に係る実践研究

教育センター主任指導主事(事)主任 藤村 和彦
 教育センター指導主事 大下 恵子
 教育センター指導主事 水ノ上 俊一
 教育センター指導主事 正原 直行

教育センターでは、平成13年度に「少人数指導の導入に係る実践研究」を行い、「少人数指導」における人的・空間的・時間的環境を利用したよさを明らかにしてきました。こうした中で、本研究では少人数指導を、次のように定義しました。

子どもそれぞれの能力・適性や興味・関心等を踏まえて編成した学習集団における「個に応じた指導」

そして、その効果的な指導の在り方を探るために、

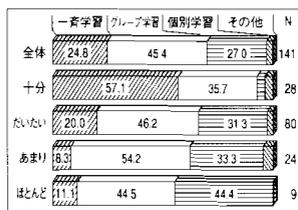
- 学習集団の編成の仕方
- それぞれの学習集団を構成する子どもの状況に応じた学習指導の方法

に焦点を当て、意識調査に基づいて子どもの「学習の状況（理解の程度）」及び「学習（学習集団の形態、学習内容、学習速度、学習パターンなど）への志向性」の視点から研究を進めました。

以下のグラフは、学習の状況と学習への志向性の関係を表すものです。

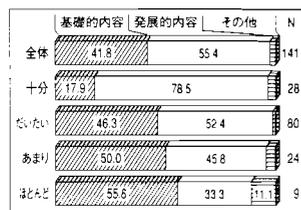
〈学習集団の形態〉

「どのような授業を受けたいですか」
 ×「授業で習ったことを理解していますか」



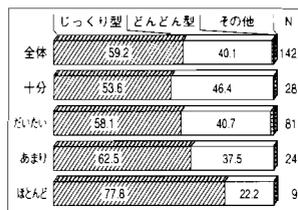
〈学習内容〉

「どのような学習内容の授業を受けたいですか」
 ×「授業で習ったことを理解していますか」



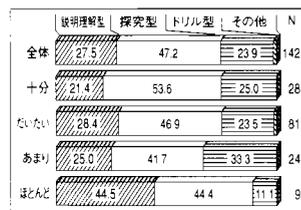
〈学習速度〉

「どのような学習の仕方の授業を受けたいですか」
 ×「授業で習ったことを理解していますか」



〈学習パターン〉

「学習内容を理解するのによい授業は」
 ×「授業で習ったことを理解していますか」



習熟度別指導を実施する際に、理解の程度が十分な学習集団では「個別」や「グループ」により、「発展的な内容」を「どンドン」と「探究」する学習が展開され、理解の程度が十分ではない学習集団では「一斉」や「個別」により、「基本的な内容」を「じっくり」

と「説明理解」したり「ドリル」をしたりする学習が展開される傾向が見られます。

しかし調査結果から、子どもの習熟の程度と学習への志向性の関係は、上記のような類型的なものではないことがわかります。このことから類型的な学習指導方法の決め方は、効果的であるとは必ずしも言えないことがわかります。

これらの結果を踏まえて、子ども一人一人の学習の志向性を把握するための希望調査を実施し、それぞれの学習集団の志向性に合わせた学習指導計画および学習指導案を作成して授業を行いました。

その結果、以下のことを明らかにすることができました。

(1) 学習集団の編成について

○ 学習集団の編成

子どもの学習の状況（学習内容の程度）及び学習（学習形態、学習方法等）への志向性の傾向に合わせて決定することが望ましい。

→子どもの状況に応じた学習集団の編成

○ 習熟度別の学習集団の編成

あらかじめそれぞれの学習集団の特徴（学習内容や方法など）を具体化して子どもに示す。

→子どもの主体的なコース選択の促進

→習熟度による優越意識や劣等意識等の払拭

(2) 学習指導計画の立案について

○ 学習過程

習熟の程度に加え、子どもの学習への志向性も十分に踏まえて計画する。

→それぞれのコースの子どもの満足感

○ 学習のねらい

いずれのコースも基礎的な内容の確実な定着を図ることを第一のねらいとする。そのために、

→子どもの知的好奇心を揺さぶるような学習課題の設定及び探究的な学習活動を取り入れる。

→それぞれの子どもの学習の志向性に合わせた学習形態を組み込んだ学習過程を計画する。

○ 「個に応じた指導」の一層の充実

→学習集団の学習への志向性の全体的な傾向を把握し、それに基づく学習指導計画を立てる。

→指導計画では応じることができない子どもの学習への志向性に応える個別の支援を具体化し、計画の中に盛り込んでおく。

本研究では、子どもの意識調査及びその結果の分析・考察に基づく学習集団編成並びに学習指導計画の立案・実践、さらに、子どもの授業後の自己評価の分析・考察の結果から、少人数指導を効果的に行うための学習指導計画のモデルを示すことができました。

詳細については、『研究紀要 第25号』にまとめています。ご活用ください。

研修講座だより② 9月までに実施した研修(一部)の概要をまとめました

| | |
|--------|---------------------------|
| 平和教育講座 | 主 題 「被爆の実相の科学的認識・継承と平和教育」 |
|--------|---------------------------|

講座の概要

本年度の平和教育講座は、下表の通り3日間の日程で実施し、大学、平和記念資料館、学校で取り組まれている平和教育の実際を紹介するとともに、被爆の実相の科学的認識・継承の課題について考えました。

| | | |
|----------------------|---------|--|
| 第1日(5/27) 教育センター | 講 義 | 『広島・長崎講座』に学ぶ平和教育改善の視点 広島市立大学広島平和研究所助教授 水本 和実 |
| 第2日(6/20) 平和記念資料館 | 見 学 | 広島ピースボランティアガイドによる解説 |
| | 講 義 | 「平和記念資料館における平和学習の実際と被爆体験の継承」 広島平和記念資料館主幹 浜岡 克宣 |
| 第3日(6/29) 基町小学校 | 実践発表・協議 | 「継承の実際」ー被爆エノキの学習の参観と児童によるエノキロードの案内ー 広島市立基町小学校教諭 二宮 孝司 |

その中から、第1日の水本先生の講義内容の一端を紹介します。

【「平和」とは何か】 「平和」とは、「暴力や戦争がない」ということだけでなく、「人権が保障され、一人一人が自分の能力を生かし、生き生きと幸せに暮らせること」である。「平和でない状況」を見抜き、その問題を見つめ、回復するためには何ができるかを考える、その努力の過程を「平和」と呼びたい。

【広島市立大学における『広島・長崎講座』】 世界で最初の被爆地として、個人の被爆体験を集積していくことは重要である。それにプラスする形で、それぞれの講師の専門性から被爆体験を見る視点を大切にしている。

【広島発の新たな「平和」の試み】 原爆が町を破壊し、人間の肉体や生活、精神に与えた影響を知り、そこに吐露される悲痛な平和への訴えを受け止めることを出発点として、平和を創り出す実践力にどう繋いでいくのが問われている。原爆の悲惨さを学ぶだけでよいのではなく、学んだことを他の「平和が損なわれている問題」に直面したときに生かされるものになっているかを考えなければならない。「平和教育」とは、人間の尊厳を理解させ、世界の恒久平和を実現する態度と能力を育てることと考える。

| | |
|-----------|------------------------|
| 幼稚園教育実技講座 | 主 題 「豊かな遊びを育む教材開発と指導力」 |
|-----------|------------------------|

指導者

緑井幼稚園教諭 大窪チエミ 亀崎幼稚園教諭 竹内 美貴
安西幼稚園教諭 新見奈緒美 口田幼稚園教諭 湯地 由美
教育委員会指導第一課主任指導主事(事)主任 財満由美子

講座の概要

午前中は、遊びの中で数量や文字に興味・関心をもってかかわることができるような教材を作成しました。

午後からは、午前中に作成した教材を基に、豊かな遊びを育むための支援について考えていきました。各グループごとに、作成した教材を使った遊び方を話し合い、指導の目的や援助のポイントについて意見を出し合いながらまとめていきました。その後、財満主任指導主事(事)主任から幼稚園教育要領の中の数量・文字についての記述と小学校学習指導要領国語科・算数科の内容をもとに幼稚園から小学校へとつながっていく力の基礎として「できる力」ではなく「わかる力」を育むことの必要性の話がありました。つまり、文字を書くことができる、計算ができるという表面的なことよりも、文字や数の機能や意味が理解できるようにすることが大切であるということでした。

講座を受講した先生方からは、「教材を作成するだけでなく、他の先生方のアイデアを聞いたり自分で考えたりしたことが大変役だった。」「グループで試行錯誤しながら作り上げていくことができ、参考になった。今後の保育に生かしていきたい。」などの感想をいただくとともに、「また来年度も参加したい。」など先生方の研修への満足感や熱意・意欲が伝わる講座でした。

教育関係資料の紹介 ～図書資料室から～

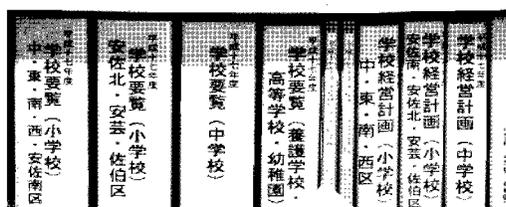
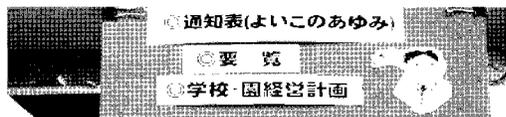
カリキュラムセンター機能の充実

教育センターでは各学校・園のカリキュラムづくりの支援を行うためのセンター機能の充実に努めています。

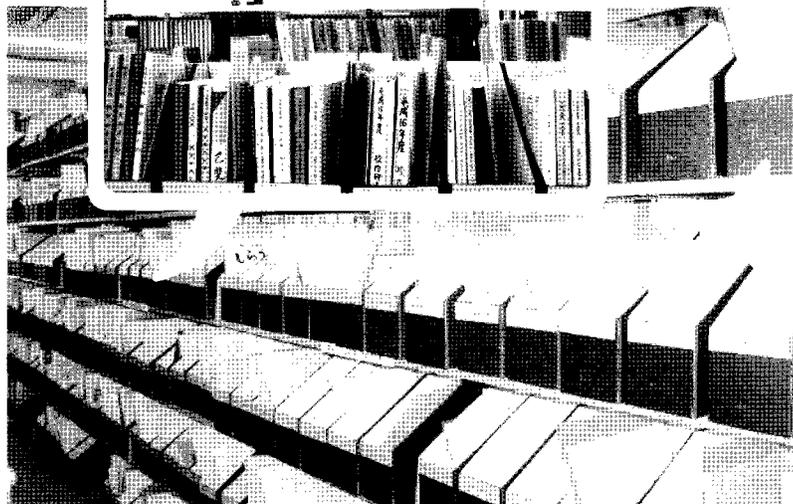
今年度も、各学校・園から多大なご協力をいただき、多くの関係資料を図書資料室に配架することができました。

【今年度新たに図書資料室に配架した資料内容】

- 学校要覧
- 学校・園経営計画
- 通知表(よいこのあゆみ)
- 「総合的な学習の時間」の年間指導計画
- 平和教育に関する年間指導計画及び実践事例



平和教育に関する資料
それぞれの色のクリアファイルに入っています
総合的な学習に関する資料



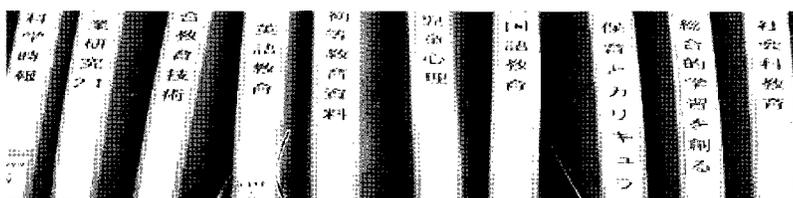
- 【学校要覧】
- 【学校・園経営計画】
- 【通知表(よいこのあゆみ)】

- 【「総合的な学習の時間」の年間指導計画】
- 【平和教育に関する年間指導計画及び実践事例】

カリキュラムに関する資料等のご提供をこれからもよろしくお願いします。

教育雑誌のバックナンバーの活用について

過去5年～10年の間に教育センターで配架しておりました教育雑誌の目次をファイリング(下の写真参照)しています。このファイルから教育雑誌のバックナンバーを探すこともできます。ぜひ活用してください。



教育雑誌の目次

図書資料室からのお知らせ

- 教育関係資料の充実
今年度も全国から送られてきた教育関係資料を配架しています。最新の教育情報をご覧になれます。ぜひ図書資料室を活用してください。
- 図書の返却
1回3冊までは、学校メール便を利用して返却することができます。(ビデオの返却はメール便ではできません)

教育センターひろば

研究員研究の紹介

『所報79号』でお知らせしましたように、今年度は7名の先生方が研究員として1年間教育研究に取り組まれています。今回は、研究員の研究内容の概略をお知らせします。

| |
|---|
| 国語科教育：倉本 理恵（安北小学校） 小学校国語科における「聞く力」を高める指導法の工夫に関する研究 -聞き出す喜びを実感する対話活動を通して- |
| 体育科教育：吉田 昌史（五月が丘小学校） 運動への関心・意欲を高める小学校体育科の学習指導法に関する研究 -仲間とのかかわりを深める器械運動の実践を通して- |
| 生徒指導・教育相談：笠井 典子（井口台小学校） 子どもの自己存在感を高める指導法の工夫に関する研究 -構成的グループ・エンカウンターでのシェアリングにおける援助に視点を当てて- |
| 美術科教育：山田 直子（安西中学校） 中学校美術科の鑑賞活動における、美術作品の見方を深めるための指導法に関する研究 |
| 英語科教育：埜 ゆかり（口田中学校） 中学校英語科における音読指導に関する研究 |
| 英語科教育：福原 一夫（広島商業高等学校） 高等学校英語科における実践的コミュニケーション能力の育成を図る指導法に関する研究 -言語のイメージ化を図ることを通して- |
| 幼稚園教育：金子 忍（亀崎幼稚園） 幼児の探究心を深める教師の援助の在り方に関する研究 -5歳児の遊びの観察と分析を通して- |

広島市学校教育研究グループ活動奨励金事業

教育センターでは先生方の少人数グループによる自主的な教育研究がより充実したものになるよう支援しています。（平成17年6月～平成18年2月）

具体的には以下のような支援をしています。

- ① 研究に係る奨励金の交付
- ② 研究内容・研究方法等についての相談
- ③ 研究内容に係る教育情報の提供

今年度は、9のグループが次の題目で研究に取り組まれています。

| |
|--|
| 楽しんで〈見る・感じる・つくりだす〉造形活動 - 1 画工作科を通して - 牛田新町小学校画工作科研究グループ |
| 小学校英会話授業の研究 小学校英会話の授業を創る会 |
| 「考える力を育てる授業の創造 - 考え方を交流する場の充実を目指して - 口田小学校算数授業研究グループ |
| 平和教育の在り方と推進の検討および指導内容と実践の研究 平和教育実践交流学習研究会 |
| 数学科における観点別評価と指導の工夫・改善(1) (主に関心・意欲・態度の評価と指導のありかた) 広島市数学教育研究グループ「くすのき会」 |
| 確かな学力を身に付けた、共に未来を切り拓こうとする生徒の育成 広島市湯来中学校教育研究 |
| 中学校の情報教育と接続・結合した商業高校での情報処理教育に関する研究 経営情報科目群研究グループ |
| 基本的な生活習慣に関する教材開発 スマイルティーチャーズ |
| 伝承文化であるわらべうた遊びを、保育に継続して取り入れる効果を探る わらべうた遊びの研究 |

指導主事研究の紹介

今年度、当センターでは、研究協力校や研究協力員の先生方にデータの収集や授業実践等の協力をお願いしながら、以下の四つの研究に取り組んでおります。

| 研究主題 | 担当者 | 研究のねらい |
|----------------------------|---------------------------------|---|
| 広島市の子どもの平和に関する意識調査(3) | 大下 恵子 水ノ上 俊一 | 広島市の子どもの平和に関する意識調査を実施し、その結果を分析・考察することを通して、これからの本市の平和教育の在り方について探る。 |
| 心の教育のカリキュラム開発に係る研究 | 堂道 和雄 谷田 増幸 清水 剛 | 豊かな心の育成に繋がるような教育活動を創造し、その効果性について検証していくことにより、各学校における心の教育の一層の充実を図るための工夫改善の方向性を示す。 |
| 少人数学級における教育指導の工夫改善に係る実践的研究 | 藤村 和彦 島本 圭子 正原 直行 山領 勲 | 少人数学級における教育指導の工夫改善について、意識調査の結果等を基に少人数学級のよさを生かし、個に応じた指導のより一層の充実を図るための指導方法の工夫改善の方向性を探る。 |
| 教育用コンテンツの開発・作成に係る実践的研究 | 住吉 磨 岩田 浩一 | 昨年度公開した教育用コンテンツに係るアンケート調査を実施し、その結果の分析・考察を基に、より活用しやすく効果的な教育用コンテンツとなるように、質・量両面の充実を図る。 |

題 字 …………… 広島市立南観音小学校校長 田原 和子
 表紙絵 …………… 広島市立牛田中学校教頭 中島 健二

編集後記

教育センターは特色ある学校づくり・信頼される学校づくりの推進に向けた研究、研修等のお役に立つことができるように、さらに努力していきたいと思っています。ぜひ教育センターを活用してください。

編集・発行／広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
 TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580
 E-mail:center@center.edu.city.hiroshima.jp
 外部Webページ: http://www.center.edu.city.hirosima.jp/
 内部Webページ: http://192.168.6.10/